

Qualitas

Business Issue Curation

【クオリタス】

Vol.20
2023
Spring

FEATURE

i LOVE_

Cover Model 上戸 彩

栗林 毅典

ルーヴル美術館的、原点回帰。

Time Capsule 私が愛したもの、10年後に向けて

Qualitas GLOBAL ソニーが生む進化と革新

Last Piece 賢者たちの次なる一手

世界のベストリゾート「エミレーツ パレス アブダビ」

Qualitas

Business Issue Curation 【クオリタス】

Vol.20
2023
Spring



<https://side-rope.co.jp/>

株式会社 SIDE ROPE

〒242-0021

神奈川県大和市中央 7-1-3

HERMÈS

The QUALITAS

Interview 304

株式会社 SIDE ROPE

代表取締役 栗林 毅典

日本の卓越した鳶の技術を世界へ。

弊社は神奈川県を拠点に、公共工事・マンション等の新築・改築に伴う足場工事、鉄骨建方を主に行っております。建設技術がどんどん進歩して様々な職種が省力化されていく中でも、建設現場に絶対に欠かせないのが鳶です。鳶は現場の花形ともいわれ他業者からも信頼を置かれており、現場の模範とならなくてはなりません。そのためには社員が皆同じ方向性を持って、現場の安全とともに現場の空気を作ることも大切な責務だと考えます。

繋がりを大切に、次世代のための街づくりを

鳶職人としての高い技術を誇り建設現場の安全を守るために



15歳で鳶（町場）の会社に入社。その後大規模な工事現場を請け負う野丁場の鳶に憧れて2社の会社を経て21歳で組織を確立。22歳で栗林建設を開業し、31歳のときに株式会社 SIDE ROPE を設立。2018年に一般社団法人綾瀬青年会議所に入会し、2023年度の理事長に就任。明るい豊かな社会の実現のために日々仲間と共に研鑽中。

——このお仕事に就かれたきっかけはなんですか？

元々体を動かす事が好きで、学もなくニツカボツカに憧れて就職しました(笑)。
いち早く仕事を覚えるために一切休みを取ることなく、1日1日を大切に仕事に向き合いました。業務に必要な資格も、年齢や条件を満たすとすぐに取っていきましたね。独立を考えるきっかけとなったのは20歳の頃、高校を卒業した友人と一緒に仕事をしたいと私を頼ってきた事でした。22歳の頃に勤めていた会社の仕事が激減したことで意を決し栗林建設を開業。様々な苦労を経て31歳に株式会社設立に至りました。皆が思い入れを持っている社名にしたいと考え、現場の花形（意）＝日本の花形（相撲の横綱）。また安全面での命綱、横の繋がりを大事にしたいという意味も込めて「SIDE ROPE」と名付けて会社をスタートしました。

——仕事をやる中でやりがいを感じる瞬間はいつでしょうか。

やはり皆で一つのものを仕上げた時の達成感、一番のやりがいです。
また鳶はその工事現場で一番最初に高い場所を施工します。そこには鳶にしか味わうことのできない景色があり、仕事って気持ち良いなと、自分に酔いしれる瞬間もあったりします(笑)。もちろん、厳しい暑さや寒さの中で作業をする大変さもありますが、ときに訪れるその一瞬に、更なるやりがいを感じたりもします。

——スタッフさんは、どのようなキャリアのある方が多いですか？

10年以上経験している親方たちを筆頭に多くの実績を持つ鳶職人が在籍しています。
さらに最近では意識の高い外国人の採用にも積極的に取り組んでいます。3年間の見習いである技能実習生。また3年間修行を積んだ特定技能生が在籍しています。彼らは家族に仕送りをするために、自身の身を粉にして、弊社で活躍してくれています。私自身、日本に生まれたことを感

謝すると共に、彼らが十分技能を身に付け、母国に戻っても活躍できるよう、もしくは家族を日本に迎え、在留資格を得られるまでサポートを行っています。

——社外の社会貢献活動にも積極的に取り組まれているそうですね。

本年、一般社団法人 綾瀬青年会議所の理事長を仰せつかつております。青年会議所は全国に約684カ所あり、世界にも拠点がある組織です。20歳から40歳までの青年と呼ばれる経済人により、明るい豊かな社会の実現を目指して活動しています。建設業として、様々な街並みに目を向けることがありますが、都心のビルや、山頂の建物などはもちろん、蛇口を捻れば水が飲める。今を何不自由なく生活できるのも先人の方々が苦勞して積み重ねてきた歴史があったと深く感じます。

次代を更に豊かにすべく、今を生きる私たちに何が出来るかを皆で考えて取り組んでいます。私自身、偉大な先輩たちと出合える機会でもあり、40歳までの限られた時間を、汗水流し苦樂を共にすることで、この先の人生のステップとして学びを得ています。

——今後の展望について教えてください。

人手不足が深刻化する中、建設業で働く若者も昔と比べ減少傾向にあります。何とか建設業の魅力を伝えて若者が働きやすい環境を整えて次世代に繋げていきたいです。
また社会情勢も厳しくなる一方で、一から独立して起業するのは本当に難しい時代だと思っています。弊社としては社長を目指す人材も支援していきたいと考えています。

今後は弊社が拠点とする神奈川県や首都圏に留まらず、日本各地に支社を設けていきたいです。更には日本の優れた建築技術を、外国人の研修生を育てることで、彼らの母国に伝播し支社の設立、現地で鳶の仕事が続けられる環境、仕組みを構築できればと考えます。
鳶と言えは横綱「SIDE ROPE」名前を轟かせられるよう邁進してまいります。

<https://side-rope.co.jp/>

TAKANORI KURIBAYASHI

from SIDE ROPE